

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	敬愛大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ケイアイダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F112310102422
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	千葉県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	商業・会計実習
	学部・研究科等名	経済学部・経営学科
	担当教職員名・役職	彌島 康朗・教授
	受講者数実績年度	令和2年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	27
	受入企業等数	19
	受入企業等名	アートコーポレーション(株)、オークラ千葉ホテル、サンコウ・エアセルテック(株)、(株)アイ・メディックス、(株)アイレックス、(株)サンリツ、(株)シルバーとっぷ、(株)セキネ、(株)タムラカントウ、(株)協同工芸社、(株)弘報社、(株)成田デンタル、(株)千葉マツダ、(株)日本保安、(株)美光商会、千葉トヨペット(株)、渡辺パイプ(株)、東邦オート(株)、富士ゼロックス千葉(株)
	インターンシップの分類	9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	以下、二つのプログラム構成となっている。 ①企業の経営層から直接学ぶことや、社員に同行し営業現場の実体験を通じて業務に必要な知識習得に取り組むなどのプログラムで構成されており、最終日には受入企業向けに体験から得た気づきや成果についてプレゼンテーションを実施するものとなっている。②企業が抱えている課題に取り組むプログラムであり、企業が抱えている問題分析や課題背景から学生目線での解決案をプレゼンテーション形式にて発表を実施するものとなっている。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 4.当該インターンシップは、必修科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部3年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	経済学部・経営学科の3年生を対象として夏休み期間中に1週間以上の就業体験を含むものであり必修科目となっている。事前学習・就業体験・事後学習を通じて学生の就業意識と職業観を育成するとともに、専門分野への理解を促すプログラムとなっている。

要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	まずインターンシップに参加することの重要性への理解を促している。そして学生個々の職業観を醸成するため、目的と目標を明確にすることや受入企業の研究、応募書類の作成、ビジネスマナー研修などを時系列に実施している。さらに、個別面談を通じて目的と目標の再確認を図り、夏休み期間中の就業体験に臨ませている。
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	目標設定したものが就業体験を通じて自らの学びとどのように繋がったのか、日報や企業の取組評価シートから個人での振り返りとグループでの振り返りを行う。そして、成果報告会に向けて報告会資料を準備し、受入企業担当者を招聘した成果報告会で発表を実施する。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	学生からの日報（日誌）内容を確認し、事前設定した目標に対する現状確認と目標達成するための行動指導を通信手段（主にメール）を活用して行っている。また、就業体験初日に参加状況、そして終了後の実績を企業に確認している。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	
	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
		4.その他

要素⑤	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	実施期間5日～10日間（企業による）
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	連続していないがオンラインと対面を合わせて5日
	5-3.上記回答内容に関する詳細	企業Aは5日間、企業Bでは10日間の就業体験を実施しているなど、企業により期間が異なる。さらに、オンライン3日間と就業体験2日間を合わせ5日間の就業体験を実施した企業もある。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
6-3.上記回答内容に関する詳細	千葉県インターンシップ推進委員会の構成団体である千葉県経営者協会・千葉県中小企業家同友会・商工会議所連合会、そして千葉県庁・千葉市役所と定期的に協議を行いインターンシップマッチングフェアへの企業招集やプログラムについての説明会などを実施している。プログラムについては企業・大学の双方で事前の内容確認を経て決定している。就業体験中の評価として企業の所見を「インターンシップ取り組み評価シート」で作成し提出していただいている。	
7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://www.u-keiai.ac.jp/">http://www.u-keiai.ac.jp/</a>	
問い合わせ先	大学等名	敬愛大学
	担当部署名	キャリアセンター
	担当者役職名	参与
	担当者氏名	中村 幸一
	電話番号	043-284-8333
	メールアドレス	<a href="mailto:career@u-keiai.ac.jp">career@u-keiai.ac.jp</a>